



「単語」ではなく「文」で会話を

校長 垣崎 晃

「先生、トイレ」「お母さん、水」「底辺」というように、単語による会話は早くて便利なものの代表的なものです。授業中、申し訳なさそうに、「先生、授業中すみません。トイレに行かせてください。」と、文でいうように指導すべきだと思います。「お母さん、のどがかわいたから、お水ちょうだい(ください)。」、と文でいったら親子の会話が豊かになると思います。先生は「平行四辺形の面積は、何と高さがわかっていると求められますか。」と問い、子供が「平行四辺形の面積は高さのほかに、底辺がわかると求められます。」などと文で答えたなら、この子供はきっと理解が深まると思います。

本校の今年度の研究教科は国語科になりました。主題は「自ら考え判断し、適切に表現する児童の育成」、副主題を「語彙を豊かにする指導の工夫を通して」としました。子供たちに自分の考えを、文章を根拠に、どうしてそう考えたのか自分の理由を付けて表現することができるようになってもらいたいと考えたからです。

言語活動は国語科だけでなく、すべての教科の中で大切に指導しています。それは、したことや考えたことは言葉によって表現し、言葉を遣って考え、言葉によって判断しているからです。つまり、言語は知的活動の基盤になっているのです。

観察・実験、見学してわかったことや考えたことなどは、記録させたり、レポートにまとめさせたりさせます。式を立て、計算をして答えを書くだけでなく、なぜそうなるのか、どうしてそれでよいか根拠を挙げて説明できるようにさせます。これまでと似たことと結びつけ、これもそうなるのではないか(類推的な考え)、いくつかの例に共通することからこのようなことがいえると考え(帰納する考え)、すでに学習してわかっていることを基にして理詰めで考え(演繹的な考え)筋道立てて説明できるようにさせます。体験したことや言葉や図式などを使って表現し内面化して、知識・技能、考え方として整理します。また、伝え合い、学び合い、高め合うなど言語は、知的なやりとり(コミュニケーション)にも役立ちます。単語でなく、文で会話すると考える力が高まると言われています。

学校では、授業の中で言語の指導を工夫します。ご家庭でも地域でも、意識して、子供たちの言葉遣いに関心を寄せていただければ幸いです。

教育アドバイザー分室

本校の3階の一室が「教育アドバイザー分室」となりました。教育アドバイザーとは、1～3年目の若手教員の指導をされる講師の先生方です。これまでは、区役所にだけ部屋がありましたが、人数の増員と共に、区役所に加え、本校の中にも分室ができました。本校を拠点に、練馬区内の学校を回られ、指導をおこないます。